

## 見る人が迷わないデザインを作るための 視線誘導の方法

### 大きさと太さで誘導する

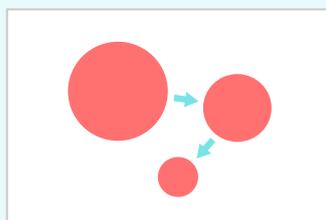
見る人は大きい要素から目が行きます。

最初に見て欲しい要素は大きく、注釈など読まなくても影響が少ない要素や目立たせたくない要素は小さくします。

文字だけのデザインするときでも、見出しの文字を本文よりも大きくすることで、見出しを先に見てもらえるように視線誘導ができます。

線の太さや文字のウェイト(太さ)も視線誘導に役立てられます。太い方が目が行きやすく、細い方が目が行きにくいです。

#### 大きい→小さい



大きい要素 → 小さい要素  
の順に視線が動く

#### 太い→細い



太い要素 → 細い要素  
の順に視線が動く

### 同じ形・同じ色で誘導する

同じ形、同じ色で揃えた要素は、ひとつのグループとして捉えられます。

見る人は、同じ形、色の要素を見てから、次のグループの要素に移るので、まとめて見て欲しい要素をグループにして、形や色を揃えます。

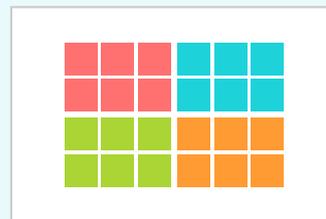
要素が多くて見づらいつと感じたときにも効果的です。その要素でグループ分けをし、グループごとで色を変えてみると、見るべき範囲がわかりやすくなります。

#### 同じ形



同じ形の要素を  
ひとつのグループとして捉える

#### 同じ色



同じ色の要素を  
ひとつのグループとして捉える

## 数字で誘導する

数字がついている要素は、数字の順番で目が追います。

見て欲しい順番でどうしても配置できないときや、要素同士の余白が少なかったり、順番がわかりにくいレイアウトの場合は、要素に数字をつけることで、見る順番を誘導することができます。

手順を説明する内容など、順番が大切になるときに効果的な方法です。

レイアウトで順番通りに配置できないときにも使える方法ですが、数字がついていても、見る人が予測したところに次の内容がないと、混乱を招き正しく情報が伝わらなくなってしまいます。

順番が大切な要素は、配置の向きに規則性を持たせるようにしましょう。

### 数字



数字がついている要素は  
数字の順番で視線が動く

## まとめ

- 大きい要素→小さい要素の順で誘導する
- 太い要素→細い要素の順で誘導する
- 同じ形・同じ色の要素はひとつのグループとして捉えられる
- 数字の順番で要素を追いかける

記事・資料制作 | 株式会社SMC-POWER (<https://smc-power.jp/>)

本資料の再配布、資料を加工した転載や配布、販売は禁止させていただきます。  
利用で発生した障害や事故などに関していかなる保証も行いません。

